

# 事業報告

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

## 1. 庶務関係

(1) 会員数の状況（平成 30 年 3 月 31 日現在） ( ) 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	名誉会員	総数
東北・北海道	116 (+3)	5 (-3)		121 (±0)
関東	473 (+13)	51 (-2)	6	530 (+11)
東海・北陸	145 (+1)	7 (+1)		152 (+2)
近畿	240 (-17)	35 (+1)	2	277 (-16)
中国・四国	128 (+2)	14 (+3)		142 (+5)
九州	130 (+3)	6 (-4)		136 (-1)
海外	8 (±0)	0 (±0)		8 (±0)
計	1240 (+5)	118 (-4)	8	1366 (+1)

団体会員 168 団体、賛助会員 49 団体、顧問 3 名

(2) 代議員総会の開催

平成 29 年 6 月 4 日（日）お茶の水女子大学にて開催した。

(3) 年次大会（一般社団法人日本調理科学会創立 50 周年記念大会）の開催

平成 29 年 8 月 31 日（木）、9 月 1 日（金）お茶の水女子大学にて開催し、研究発表・事業報告会および学会賞授与式等を行った。

(4) 一般社団法人日本調理科学会創立 50 周年記念事業の実施

① 平成 28 年度より始まった募金活動を引き続き行い、目標額に達成し、下記②～⑦に使用した。

なお、残金は平成 30 年度以降も継続する下記④の必要経費に充てる予定である。

② 創立 50 周年記念大会において、記念式典・記念シンポジウム・記念講演会・記念祝賀会の記念行事を行った。

③ 記念増刊号を 8 月に 2000 部発行し、会員等に配布した。

④ 記念出版として、(一社)農山漁村文化協会より、シリーズ「伝え継ぐ日本の家庭料理」の第 1 回及び第 2 回を刊行した。

⑤ 学会のパンフレットを 5000 部作成し、会員等に配布した。

⑥ 50 周年記念のクリアファイルを 2000 部作成し、大会参加記念品として配布した。

⑦ 寄付者名を学会誌に掲載するとともに記念品を送付した。

(5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 3 名、若手研究者発表奨励賞\*3 名の表彰

\*若手研究者の研究奨励のため本年度より年次大会において「若手研究者発表奨励賞」を創設した。

(6) 会議の開催

① 理事会 3 回

② 編集委員会 6 回

③ 情報管理委員会 2 回

④ 学会賞選考委員会 2 回

⑤ 刊行委員会 3 回

⑥ 選挙管理委員会 3 回

(7) 選挙管理委員会を立ち上げ、平成 30-31 年度の代議員選出、理事候補者・会長候補者・副会長候補者・監事候補者の選出を行った。

## 2. 企画・広報関係

(1) 創立 50 周年記念事業と年次大会を中心とした企画・広報を行った。

(2) 6 月 4 日（日）講演会を開催し、講師に島田淳子氏と下村道子氏、両名誉会員を迎え「日本調理科学会の創立時を振り返る」をテーマに、それぞれの視点でご講話いただいた。

## 3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 50 巻 第 2 号 1,750 部、第 3 号 1,750 部、第 4 号 1,750 部、第 5 号 1,750 部、第 6 号 1,750 部

第 51 巻 第 1 号 1,750 部

## 編集・刊行

## ① 論文投稿状況（平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日）

報文 14 編、ノート・資料 14 編、計 28 編

## ② 論文審査状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

区 分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
27 年度投稿	25	0	2	13	1	41
28 年度投稿	4	4	2	6	14	30
29 年度投稿	7	7	2	0	12	28

## ③学会誌 50 巻 2～6 号および 51 巻 1 号掲載発行状況

区 分	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	1 号	合計
報文	0	1	2	1	2	2	8
ノート・資料	2	1	0	2	2	3	12
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	0	3	6	7	2	18
ページ数	45	42	40	49	68	66	310

④学会誌は発行 1 か月以内に電子版を J-STAGE にて公開した。

⑤投稿規程等の見直しを行った。

## (2) 情報管理委員会

① 情報管理委員会を開催し、ホームページ等の管理、運用を行った。

② 平成 29 年度大会演題登録はアトラス社の Confit Submission を利用して行った。  
研究発表要旨を J-STAGE にて公開した。

③ メール・ニュースを 5 月 1 日号、7 月 30 日号、10 月 4 日号、11 月 7 日号、2 月 13 日号、3 月 7 日号の 6 回発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を 11 月に行った。

④ 転載許可の申請に対し対応した。

## 4. 渉外関係

(1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。

(2) 下記の関連学協会と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

## 5. 研究委員会関係

(1) 災害時メニュー開発に関する研究委員会は、平成 29 年度大会において認定 NPO 法人キャンパーとともに大会実行委員会の協力を得て、8 月 31 日（木）昼食のデモ調理（100 食）を行い、デモ調理時のアンケートをまとめた。

(2) 次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会は、都道府県別に「おやつ」をテーマにして、年次大会においてポスター発表した。45 都道府県の研究委員が参加した。

## 6. 特別委員会関係

刊行委員会は、創立 40 周年記念事業である日本調理科学会監修のクックリーサイエンスシリーズを引き続き刊行しており、本年度は 5 月に第 8 号（「泡をくうお話」著者：畑江敬子氏）を発行した。

## 7. 支部関係 次ページに掲載